

7. 万一のとき

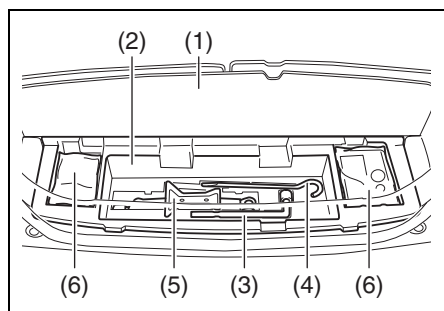
- パンク 7-2
- バッテリーあがり 7-19
- ヒューズ切れ 7-22
- 電球切れ 7-26
- オーバーヒート 7-30
- その他 7-31

工具、ジャッキ、タイヤパンク 応急修理セットの収納場所

荷室のフロアボード (1) 下にあるツールボックス (2) に収納されています。

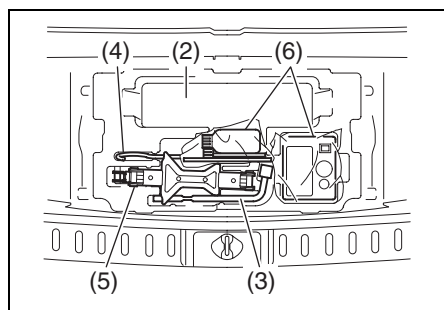
- スライド機構なし後席車の場合、ツールボックスはラゲッジアンダーボックスの下にあります。
→ **5-70 ページ (ラゲッジアンダーボックス)**

スライド機構付後席車



50M0145

スライド機構なし後席車



50M0118

- (3) ホイールナットレンチ
- (4) ジャッキバー
- (5) ジャッキ
- (6) タイヤパンク応急修理セット

- 上図のタイヤパンク応急修理セットは代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス

- 工具 (ジャッキバー、ホイールナットレンチ)、タイヤパンク応急修理セットは、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから所定の位置に収納してください。

パンクしたときは

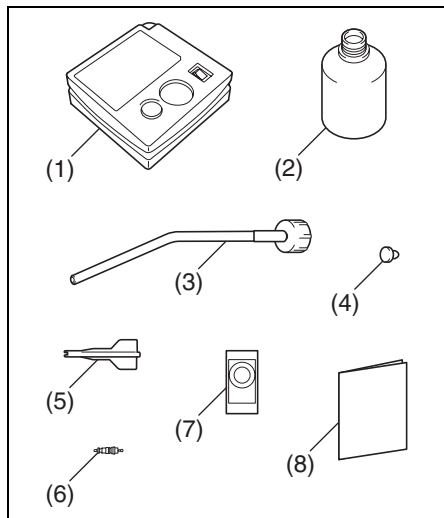
タイヤパンク応急修理セットをお使いください。

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかに日産販売会社に修理または交換してください。

- 応急修理セットは、AタイプとBタイプのどちらかとなります。
- Aタイプのコンプレッサーの場合、空気圧計の隣に黄色いボタンがあります。(Bタイプには黄色いボタンはありません)

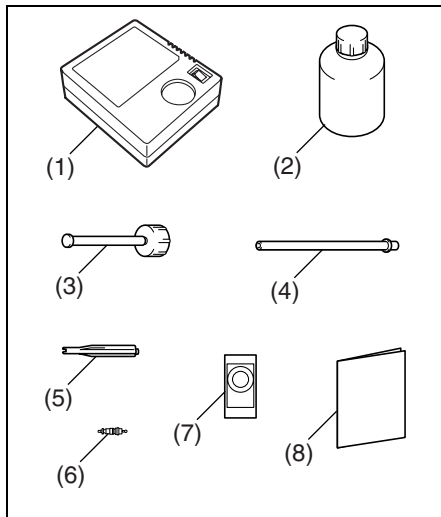
Aタイプ



50M0119

- (1) エアコンプレッサー
- (2) 修理剤ボトル
- (3) 注入ホース
- (4) 注入ホースの栓
- (5) コア回し
- (6) パルプコア(予備)
- (7) 速度制限シール
- (8) セット付属の取扱説明書

Bタイプ



82K111

- (1) エアコンプレッサー
- (2) 修理剤ボトル
- (3) 注入ホース
- (4) 延長ホース(修理剤抜き取り用)
- (5) コア回し
- (6) パルプコア(予備)
- (7) 速度制限シール
- (8) セット付属の取扱説明書

▲ 注意

- 応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。
- エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。その他の目的で使用しないでください。
- エアコンプレッサーはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ 10分以上連続して使用しない
 - ・ 防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする
 - ・ 砂やほこりなどを吸い込ませない
 - ・ 使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する
 - ・ 分解、改造などをしない
 - ・ 強い衝撃や圧力を加えない

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
 - ・ 期限が切れる前に、新品と交換してください。
- 電源ソケットの確認
- エアコンプレッサー作動の確認
 - ・ エンジンスイッチを **[ACC]** にし、エアコンプレッサーの電源プラグを電源ソケットに差し込んで行ないます。

タイヤの応急修理のしかた

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

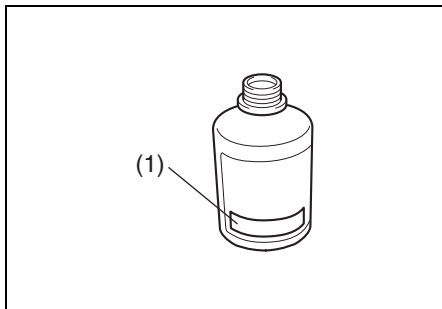
▲ 注意

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

■ 次のような場合はタイヤの応急修理ができません

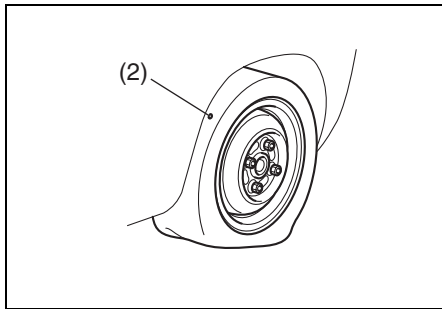
日産販売会社やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限 (1) が切れている (有効期限はボトルのラベルに記載)



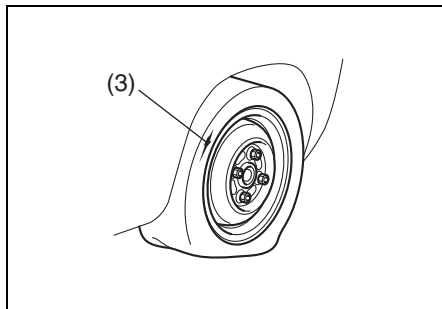
50M0120

- 上図のボトルは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- タイヤの接地面に長さ 4mm 以上の切り傷や刺し傷 (2) がある



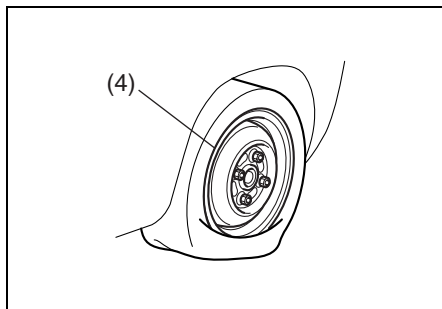
82K113

- タイヤの側面に傷 (3) を受けている



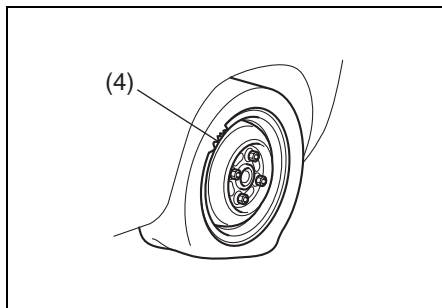
82K114

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤがホイールリム (4) の外側に完全に外れている



82K300

- ホイールリム (4) が破損または変形している



82K116

- タイヤが 2 本以上パンクしている (修理剤はタイヤ1本分です)

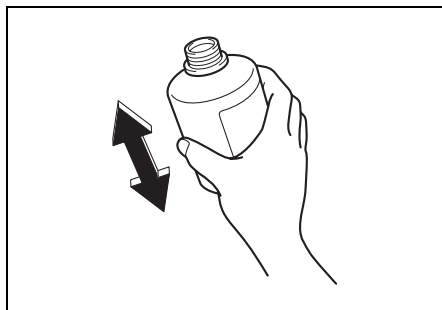
■ タイヤ応急修理のしかた (Aタイプ)

Bタイプの場合は、7-10ページ以降をお読みください。

1 他車に注意をうながすため、非常点滅灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。セレクトレバーを [P] に入れ、エンジンを止めます。必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

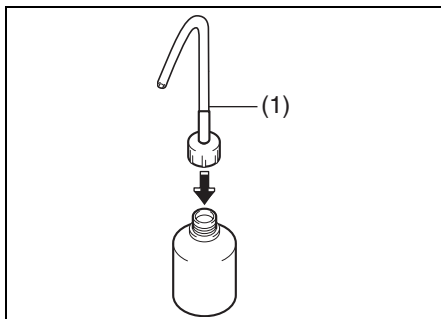
3 同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振ります。



50M0121

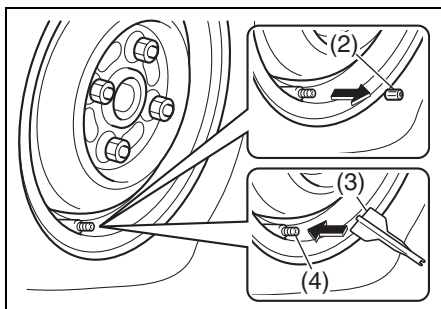
4 注入ホース（1）を修理剤ボトルにしっかりとねじ込みます。

- ボトルの栓が破れます。



50M0122

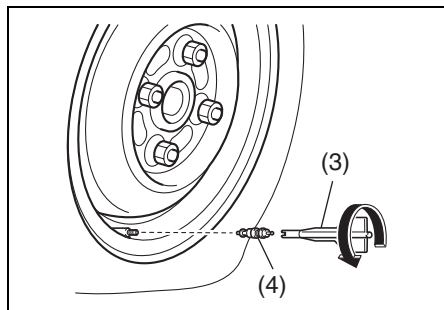
5 タイヤバルブからキャップ（2）を反時計方向にまわして外します。コア回し（3）の羽根状部分の先端などでバルブ内のバルブコア（4）を押し、タイヤに残った空気を完全に抜きます。



50M0165

- 6 コア回し (3) でバルブコア (4) を反時計方向にまわして外します。

- バルブコアは再使用します。汚れないようにきれいなところへ保管します。



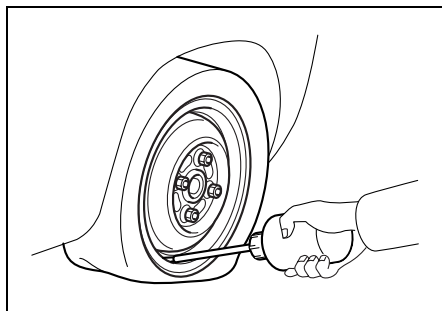
50M0123

▲ 注意

バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

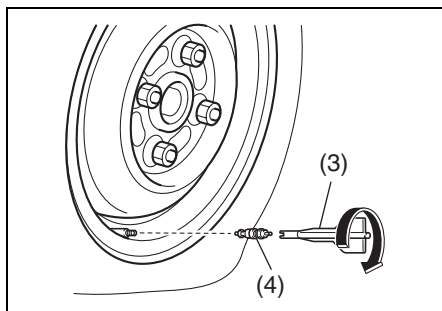
- 7 注入ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。修理剤ボトルを逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

- 空になったボトルは、修理剤の抜き取りに必要なため、タイヤ交換または修理を依頼するときに日産販売会社にお渡しください。
- こぼれた修理剤は、ふき取るかそのまま乾燥させてからはがします。



82K121

- 8 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、コア回し (3) でバルブコア (4) をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。



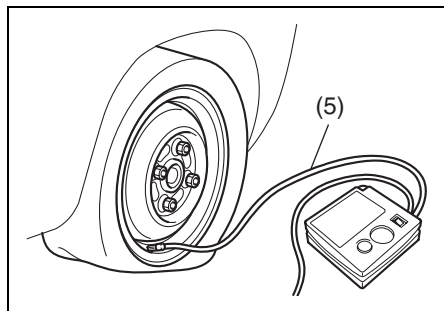
50M0124

♪m アドバイス

外しておいたバルブコアが汚れていたり紛失したりした場合は、タイヤパンク応急修理セット内にある予備のバルブコアをご使用ください。

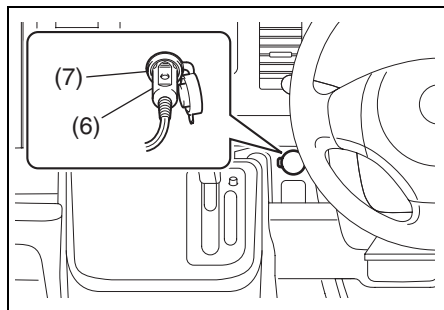
- 9 エアコンプレッサーの底面から、ホースを取り出します。

- 10 エアコンプレッサーのホース (5) 先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



50M0125

- 11 エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認します。電源プラグ (6) を電源ソケット (7) に差し込み、エンジンスイッチを **ACC** にします。



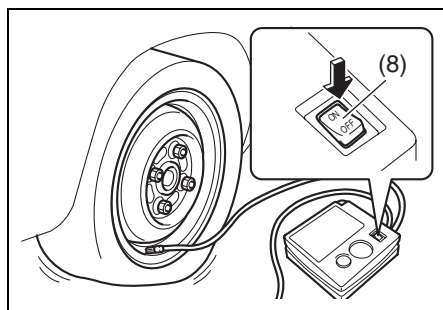
50M0146

- 12 エアコンプレッサーのスイッチ (8) を ON にし、空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。

- 指定空気圧まで昇圧するには、約 5 分程度が必要です。5 分以内に十分昇圧しないときは、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2～3 回以上回し、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ないます。

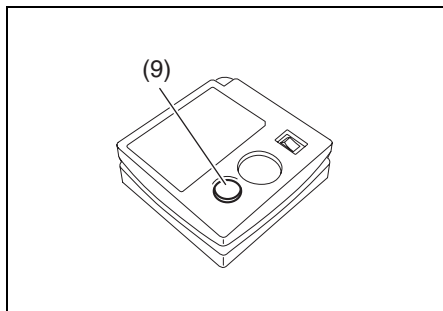
→ 7-14 ページ (ジャッキアップ)

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気もれないようにリムとタイヤのすき間をなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。(すき間がなくなれば空気圧が上がります。)
- 空気圧が十分高くないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。日産販売会社や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。



50M0127

- 空気を入れすぎたときは、コンプレッサーのボタン (9) を押して、空気を抜きます。



50M0128

▲ 注意

- コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。
- コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合には、けがのおそれがあります。
- タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。
- コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。

↓m アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

- 13 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、コンプレッサーを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

- 14 約10分間または5km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130kPa (1.3kgf/cm²) 以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

- コンプレッサーの空気圧計でタイヤ空気圧を測定するときは、ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに、一度スイッチをONにしてコンプレッサーを作動させます。そのあと、すぐにスイッチをOFFにしてから、空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が130kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、日産販売会社やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

▲ 注意

必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

- 15 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80km/h以下の速度で走行してください。



82K359

▲ 注意

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。

- SRSエアバッグの収納部。万-のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。
- 警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置

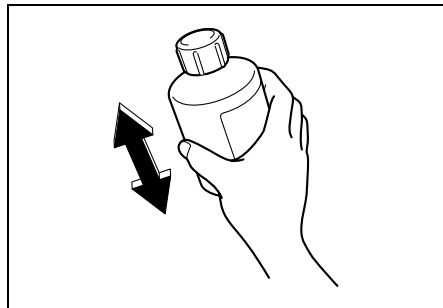
■ タイヤ応急修理のしかた (Bタイプ)

Aタイプの場合は、7-6 ページ以降をお読みください。

1 他車に注意をうながすため、非常点滅灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができて、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

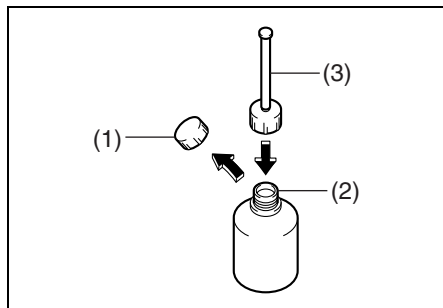
2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。セレクトレバーを **P** に入れ、エンジンを止めます。必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

3 同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。タイヤパンク応急修理セットを取り出し、注入ホースをねじ込む前に、修理剤ボトルをよく振ります。



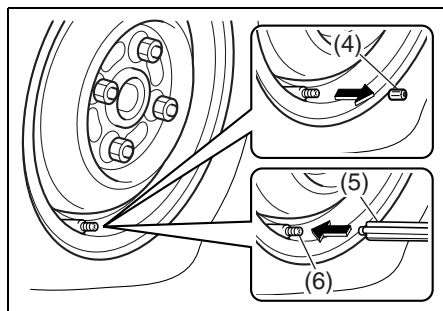
82K301

4 修理剤ボトルのキャップ (1) を外し、中ぶた (2) を外さずに注入ホース (3) をねじ込みます。



82K302

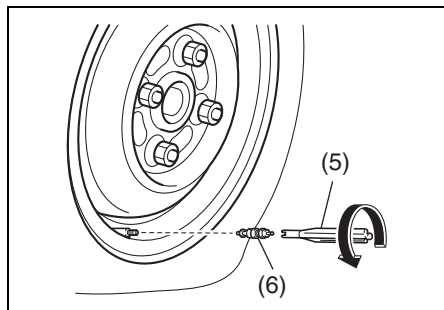
5 タイヤバルブからキャップ (4) を反時計方向にまわして外します。コア回し (5) の後ろ（凸部）でバルブ内のバルブコア (6) を押し、タイヤに残った空気を完全に抜きます。



82K298

6 コア回し (5) でバルブコア (6) を反時計方向にまわして外します。

- バルブコアは再使用します。汚れないようにきれいなところへ保管します。

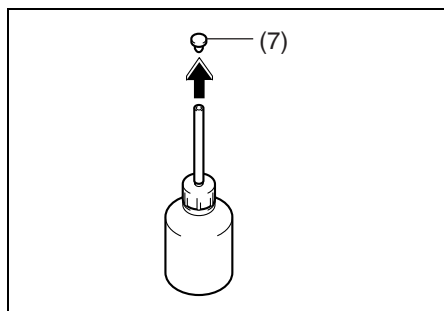


82K119

注意

バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すことがあります。慎重に外してください。

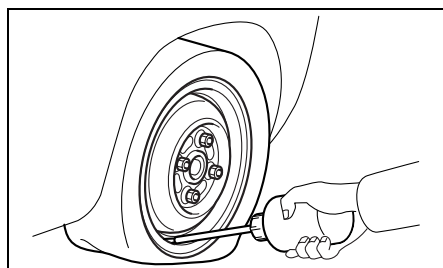
7 注入ホースの栓 (7) を外し、ホースの先端をタイヤバルブに差し込みます。



82K120

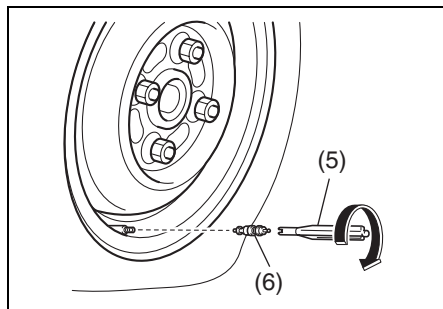
8 修理剤ボトルを逆さまにして持ち、手で何回も圧迫し、修理剤をすべてタイヤ内に注入します。

- 空になったボトルは、修理剤の抜き取りに必要なため、タイヤ交換または修理を依頼するときに日産販売会社にお渡しください。
- こぼれた修理剤は、ふき取るかそのまま乾燥させてからはがします。



82K121

9 注入ホースをタイヤバルブから引き抜き、コア回し (5) でバルブコア (6) をタイヤバルブにしっかりとねじ込みます。



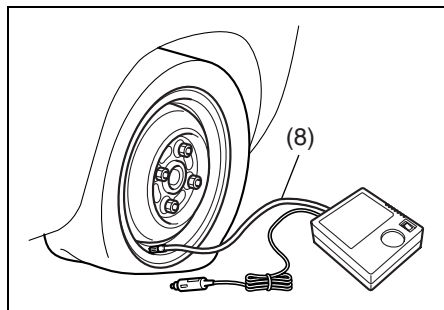
82K122

アドバイス

外しておいたバルブコアが汚れていたり紛失したりした場合は、タイヤパンク応急修理セット内にある予備のバルブコアをご使用ください。

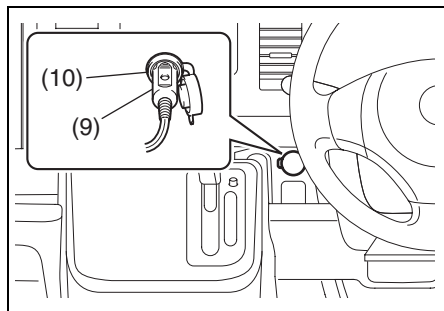
10 エアコンプレッサーの側面から、ホースを取り出します。

11 エアコンプレッサーのホース (8) 先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



82K123

12 エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認します。電源プラグ (9) を電源ソケット (10) に差し込み、エンジンスイッチを **ACC** にします。



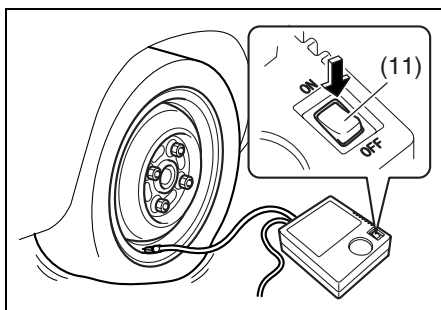
50M0163

13 エアコンプレッサーのスイッチ (11) を ON にし、空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。

- 指定空気圧まで昇圧するには、約 5 分程度が必要です。5 分以内に十分昇圧しないときは、ジャッキでタイヤを地面から浮かせて手で 2～3 回以上まわし、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ないます。

→ 7-14 ページ (ジャッキアップ)

- タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気がもれないようにリムとタイヤのすき間をなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。(すき間がなくなれば空気圧が上がります。)
- 空気圧が十分高くないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。日産販売会社や JAF などのロードサービス事業者にご連絡ください。



82K125

- 空気を入れすぎたときは、コンプレッサーのホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

▲注意

- コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。
- コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。
- タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。
- コンプレッサーは10分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

- 14 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、コンプレッサーを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。

- 15 約10分間または5km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が130kPa (1.3kgf/cm²) 以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

- コンプレッサーの空気圧計でタイヤ空気圧を測定するときは、ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに、一度スイッチをONにしてコンプレッサーを作動させます。そのあと、すぐにスイッチをOFFにしてから、空気圧を確認します。
- 走行後、タイヤ空気圧が130kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、日産販売会社やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

▲注意

必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

- 16 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80km/h以下の速度で走行してください。



82K359

▲ 注意

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。

- SRSエアバッグの収納部。万-のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。
- 警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置


タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかに日産販売会社で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤は日産販売会社でご購入ください。

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

- セレクトレバーを  に入れ、エンジンを止めてください。

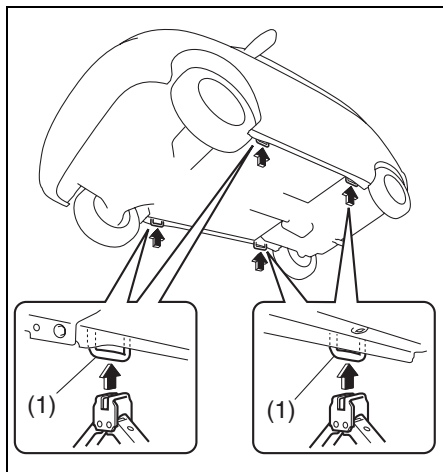
▲ 警告

万-ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- 地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。
- ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。
- ジャッキはこの車に付属のものを使用し、他の車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキを他の車に使用しないでください。
- ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。
- ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。
- ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。
- ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。
- 複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。

1 ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置に軽く接触させます。

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置にはまっているか確認します。



64L70050

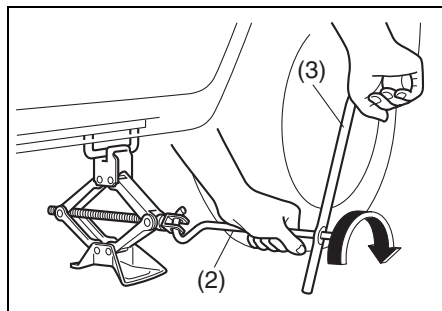
(1) 車載ジャッキ指定位置

3 ジャッキに、ジャッキバーとホイールナットレンチを取り付けます。
(次の図参照)

📌 **アドバイス**

ジャッキバーは次の図のように、ホイールナットレンチの穴に差し込みます。

4 ホイールナットレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



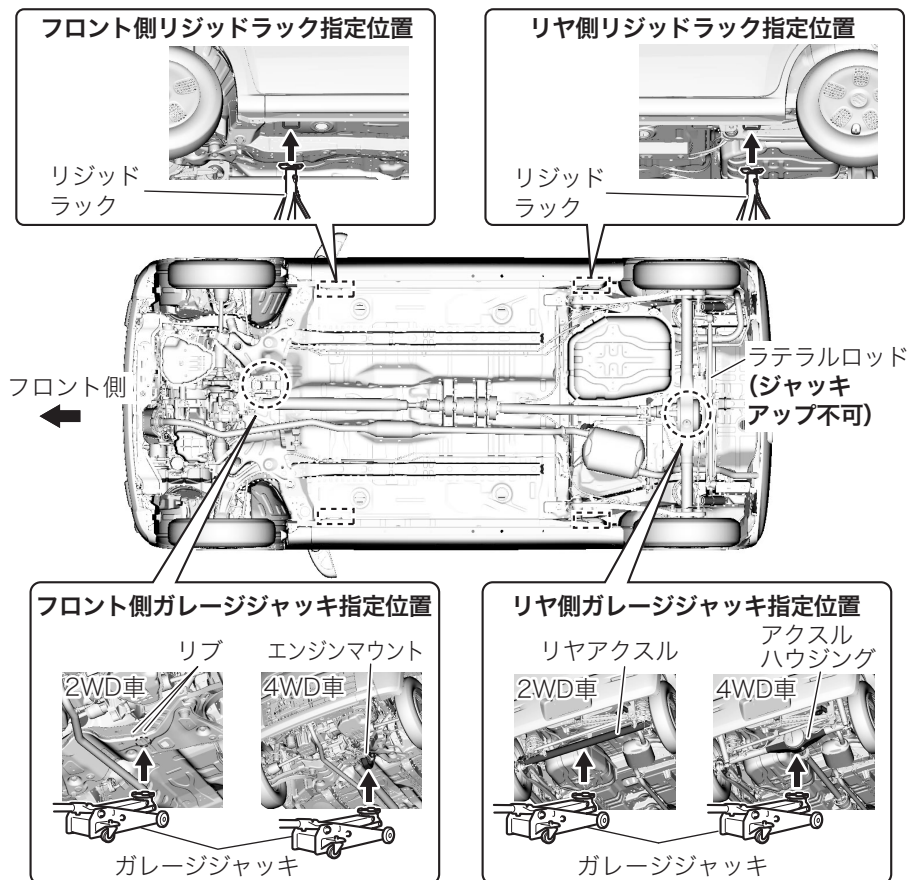
64L70060

(2) ジャッキバー
(3) ホイールナットレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を下図に示します。詳細については、日産販売会社にご相談ください。

- 2WD 車のフロント側ガレージジャッキ指定位置は、サスペンションフレームにあるリブとリブの中央を目安にしてください。



50M0171

警告

- 必ず図に示す指定位置を守ってください。
- ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。
- フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。

タイヤの取付け・取外し

- 1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

注意

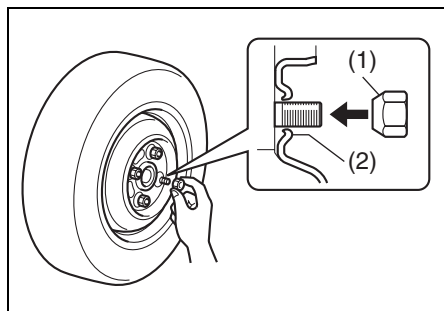
- ホイールの取付け面を汚したときや汚れがあるときはふき取ってください。汚れがあると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
- ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締め過ぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にとすると傷つきにくくなります。

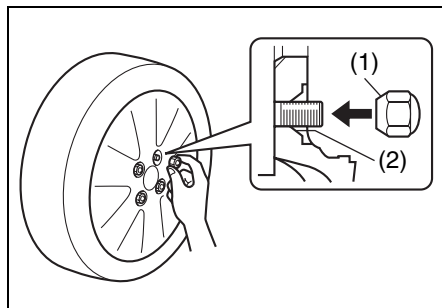
- 2 ホイールナットのテーパ部 (1) が、ホイール穴のシート部 (2) に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

スチールホイール装備車



82K130

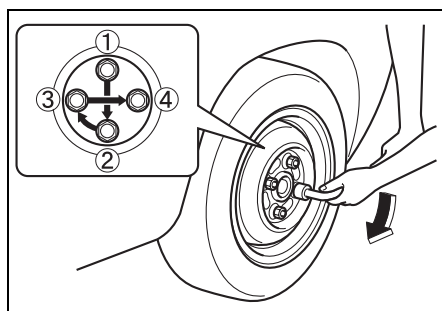
アルミホイール装備車



82K131

- 3 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。
- 4 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを下図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク : 85N・m
(870kgf・cm)



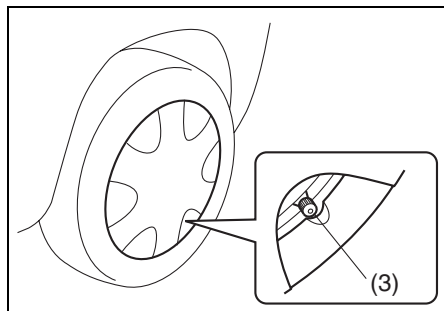
82K132

注意

ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は 330N (34kgf) を目安にしてください。ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締め過ぎてボルトが折れるおそれがあります。

5 フルホイールカバー（タイプ別装備）を付けます。

- タイヤの空気注入口 (3) とカバーの切り欠き部分を合わせてから、確実に押し込みます。



64L70280

タイヤを交換したあとは

- 工具とジャッキを所定の位置に収納してください。
- タイヤ空気圧警報システム装備車は、空気圧の調整後にタイヤ空気圧警報システムの初期設定を行なってください。

→ 4-27ページ

(タイヤ空気圧警報システム)

- パンクした標準タイヤは、後席の背もたれを倒すなどして荷室に収納してください。

注意

- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、日産販売会社にご連絡ください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから 1,000km 程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーがあがっています。

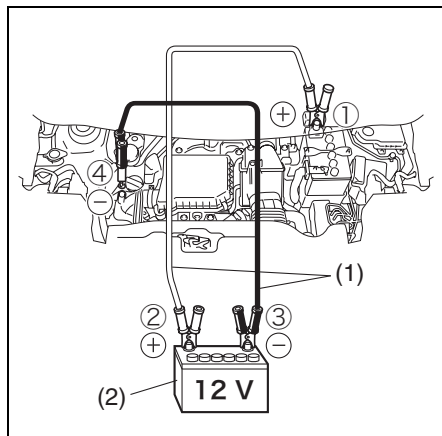
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドランプが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12Vバッテリーを使用している他のバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

- 1 1本目のブースターケーブルを①→②の順序で接続し、2本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

- ① バッテリーあがり車の ⊕ 端子
- ② バッテリー正常車の ⊕ 端子
- ③ バッテリー正常車の ⊖ 端子
- ④ バッテリーあがり車のエンジン本体
(エンジンマウントのボルトなど)



50M0149

- (1) ブースターケーブル
- (2) 正常車のバッテリー

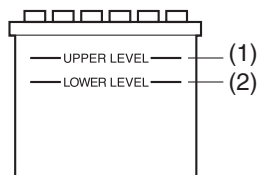
- ①～④の数字は、ブースターケーブルを接続する順序を表しています。

- 2 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。
- 3 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
- 4 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。
- 5 お近くの日産販売会社でバッテリーを完全充電します。

警告

- バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。

- バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限(2)以下のままで充電などすると、バッテリーの発熱や爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。バッテリー補充液を上限(1)まで補給してから、充電などを行ってください。



80J1267

- 充電は火気のない風通しのよいところで、すべてのバッテリーキャップを外して行ってください。
- ④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。
- 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

▲ 注意

- ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ファンベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。
- ショート防止のため、ブースターケーブルの⊕端子は、バッテリーの⊕端子以外の部分(⊖端子、ボデー、ブラケットなど)と接触させないでください。
- オートマチック車は押しがけができません。

バッテリーを交換するときは

▲ 警告

バッテリーを交換するときは、次のことをお守りください。

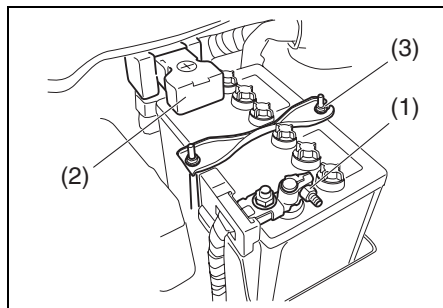
- 濡れた手でバッテリーに触らないでください。感電のおそれがあります。
- 走行後の場合は、30分以上放置し、バッテリーの水素ガスが抜けるのを待ってから作業を行なってください。
- バッテリーを交換するときは、ブレーキパイプに当たらないように注意してください。ブレーキパイプが変形するおそれがあります。万一、ブレーキパイプが変形したときは、自分で直さず、日産販売会社で点検を受けてください。

⚠️ アドバイス

バッテリー交換の際、バッテリーや車両の部品を損傷するおそれがありますので、日産販売会社での交換(有料)をおすすめします。

■ 外しかた

- 1 エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) にします。プッシュエンジンスターター非装備車は、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- 2 バッテリーケーブルの⊖側(1)を外します。
 - バッテリー端子のナットは、10mmスパナ(市販品)などでゆるめます。



50M0142

▲ 注意

ショート防止のため、次のことをお守りください。

- ⊖側のケーブルから先に外す
- 金属工具などにより、⊕端子と⊖端子とを接触させない
- 外したケーブルは、交換時にバッテリー端子と接触しないよう、バッテリーの側面や離れた場所へ動かす

3 バッテリーケーブルの⊕側 (2) を外します。

- カバーを開け、ナットをゆるめま
す。

4 取付金具 (3) を外します。

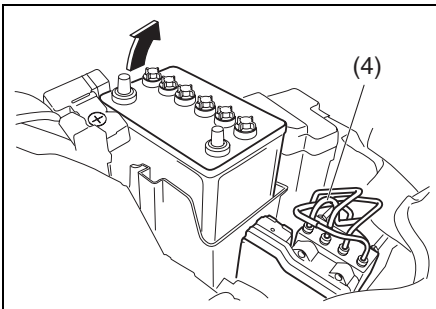
- 取付金具のナットは、8mm スパナ
(市販品)などで外します。

⚠️ アドバイス

取付金具を外すときは、取り付ける
ときに位置を間違えないよう、あらかじ
め両側のフックがかかっている位置を
確認してください。

5 バッテリーを外します。

- 奥側を斜めに引き上げるようにし
て持ち上げます。
- バッテリーは重いため、両手で
しっかりと持って、ブレーキパイ
プなどに当たらないように取り出
します。



50M0143

(4) ブレーキパイプ

⚠️ 注意

バッテリーを傾けすぎないでくだ
さい。液漏れのおそれがあります。

■ 取り付けかた

「外しかた」と逆の手順で行ないます。

- バッテリーのタイプについては、巻末
の「サービスデータ」をご覧ください。

→ 8-2ページ (サービスデータ)

- バッテリーを交換したときは、初期設
定が必要な機能があります。

→ 8-5 ページ (次の機能は、必ず初
期設定してください)

⚠️ 注意

- バッテリーケーブルを取り付けると
きは、⊕側から先に取り付けてくだ
さい。ショートのおそれがあります。
- バッテリー端子のナットは、確実に
締め付けてください。ゆるみがある
と、火災や故障の原因となります。

⚠️ アドバイス

バッテリー交換は、「マイナスで始ま
り、マイナスで終わる」と言われま
す。作業手順を守ってください。

バッテリーあがりを防ぐためには

- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ラジオ（タイプ別装備）などを聞いたりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。

→ 2-3ページ

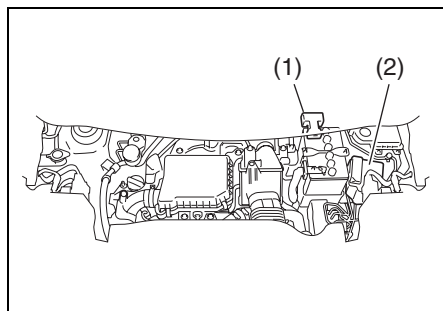
(バッテリーの液面を点検する)

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と運転席足元にあります。

エンジンルーム内のヒューズ

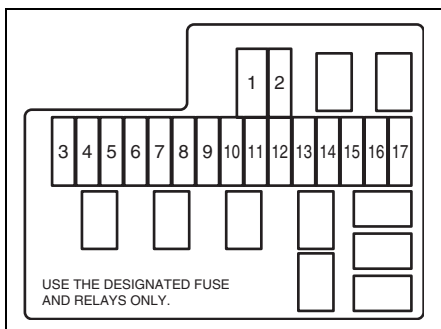


50M0129

- (1) メインヒューズボックス
- (2) リレーボックス

■ リレーボックス内のヒューズ

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。



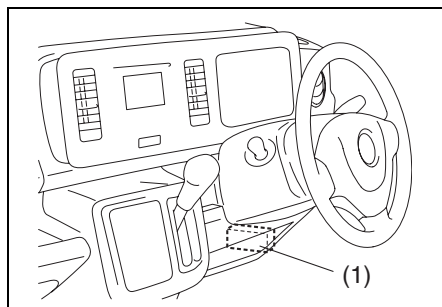
50M0150

- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	H/L HI/SOL L	—	—
2	ESP BUP	—	—
3	FI	15A	燃料噴射装置
4	H/L R	15A	ヘッドランプ (右)
5	CPRSR	10A	コンプレッサー
6	A-STOP	—	—
7	H/L	25A	ヘッドランプ
8	ST2	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
11	RDTR	30A	ラジエーター ファン
12	THR MOT	15A	スロットル モーター
13	DCDC2	—	—
14	AT/CVT	15A	CVT
15	DCDC	—	—
16	H/L L	15A	ヘッドランプ (左)
17	FR FOG	—	—

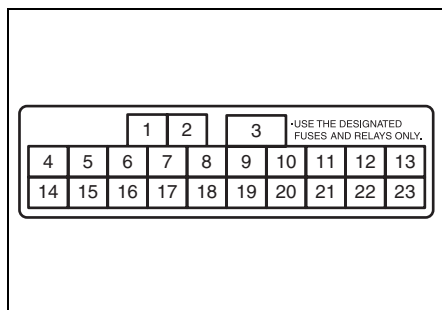
運転席足元のヒューズ



50M0159

(1) 運転席足元のヒューズ

ヒューズの表は、ヒューズの近くにあります。



82K149

- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

万-のとき/ヒューズ切れ

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	ST	30A	スターター
2	B/U	25A	ルームランプ オーディオ
3	P/W	30A	パワー ウインドー
4	注)P/W T	20A	パワーウインドー タイマー機能
5	BLW	25A	ブローワー ファン
6	D/L	20A	ドアロック
7	BCM	10A	BCM
8	RADIO	15A	ラジオ
9	HTR	10A	ヒーター
10	WIP	15A	ワイパー
11	BACK	10A	後退灯
12	A/B	10A	エアバッグ
13	ACC	15A	電源ソケット
14	RR DEF	20A	リヤ デフォッガー
15	STL	15A	電動ハンドル ロック
16	STOP	10A	制動灯
17	HORN HAZ	15A	ホーン 非常点滅灯
18	TAIL	10A	尾灯

位置	表示	容量	接続先名称
19	DOME	10A	ルームランプ
20	IG1 SIG	10A	パワー ステアリング
21	MTR	10A	メーター
22	IG COIL	15A	イグニッション コイル
23	ABS/ESP	10A	ABS

注) P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。
→ **3-22 ページ (はさみ込み防止機構の初期設定のしかた)**

ヒューズの点検と交換

ヒューズの点検・交換には、ヒューズ抜き(低背ヒューズ用、市販品)および交換用ヒューズ(別売り)が必要となります。点検・交換の際は、日産販売会社にご相談ください。

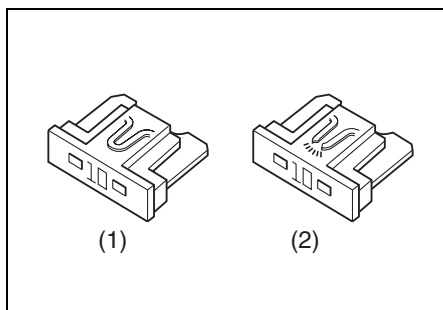
点検・交換のしかた

- 1 エンジンスイッチを **LOCK**(OFF) にします。
- 2 エンジンルーム内のリレーボックスでは、リレーボックスのカバーを外します。

3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜き（市販品）をヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。



82K208

(1) 正常なヒューズの例
(2) 切れたヒューズの例

▲ 注意

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯は他の人に見てもらるか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅灯の電球切れが考えられます。

ヘッドランプなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水 droplet がついているときやランプ内に水がたまっているときは、日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありません。（窓ガラスがくもると同じ現象です）

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ (8-3ページ) をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

なお、制動灯が点灯しないときには、タイヤ空気圧警報システム (タイプ別装備) が正常に作動しない場合があります。

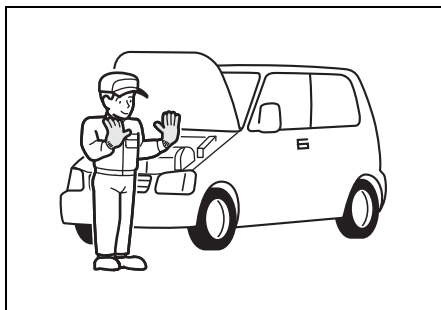
→ 4-27ページ

(タイヤ空気圧警報システム)

▲ 注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- 安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。
- 電球が十分に冷えてから行なってください。消灯直後は熱くなるため、やけどのおそれがあります。とくにハロゲン電球 (ヘッドランプ) が高温になります。また、エンジンルーム内の電球は、エンジンが十分に冷えてから交換してください。
- ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。
- 車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。



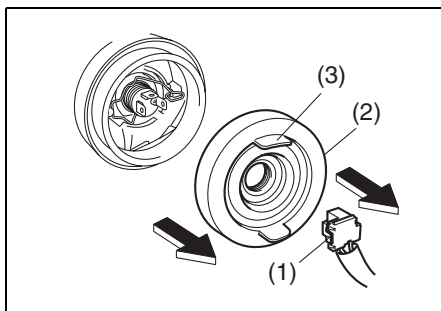
51K0180

アドバイス

ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。

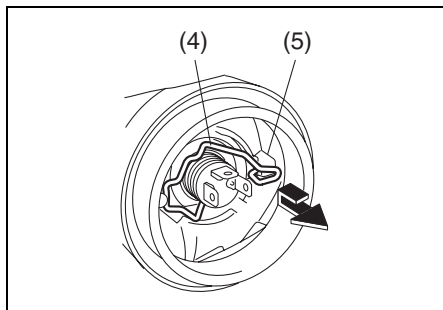
ハロゲンヘッドランプ

- 1 ボンネットを開けます。
→ 5-55ページ (ボンネット)
- 2 カプラー (1) は、カプラー本体をしっかり持って車両後方へまっすぐ引いて外します。
ゴムカバー (2) は、ツマミ (3) を引いて外します。



50M0152

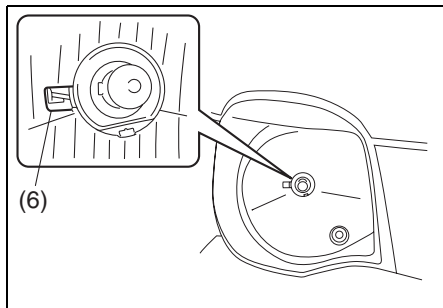
- 3 止め金 (4) を図の矢印のように、押しながら下方にずらして固定フック (5) から外します。



64L70130

アドバイス

止め金の固定状態は、電球近くの穴 (6) をとおして車両前方からも確認できます。



50M0153M

- 4 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、日産販売会社にご相談ください。

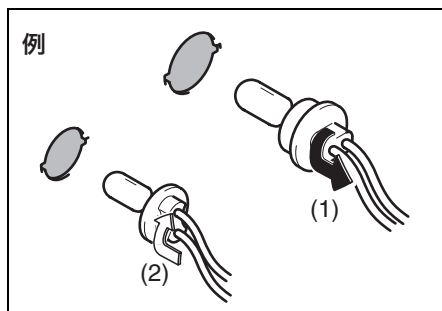
- 方向指示器/非常点滅灯 (フェンダーまたはドアミラー)
- ハイマウントストップランプ

その他の一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取外し/取付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取外し/取付け

- ソケットをランプ本体から取り外すとき (1) は、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるとき (2) は、ソケットをランプ本体の切り欠きに合わせて差し込み、時計方向にまわします。

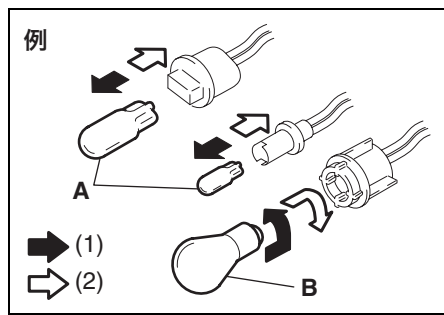


65J283

■ 電球の取外し/取付け

2つのタイプがあります。

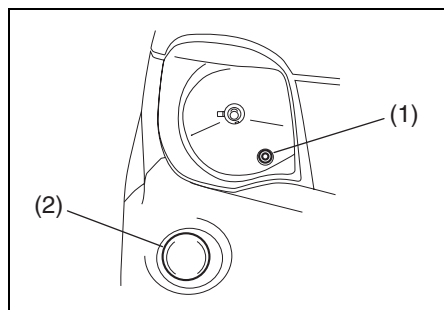
- Aのタイプは、図のように抜き差しするだけです。
- Bのタイプは、次のようになります。
 - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
 - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。



(1)取外し (2)取付け

■ 車幅灯

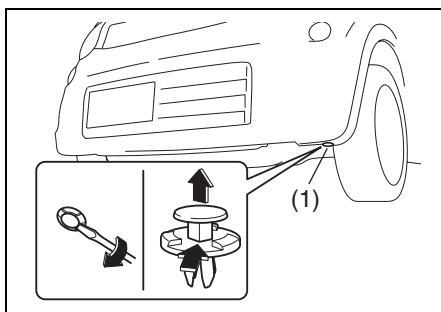
ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。



(1)車幅灯(Aタイプ)
(2)方向指示器/非常点滅灯
(前面、Bタイプ)

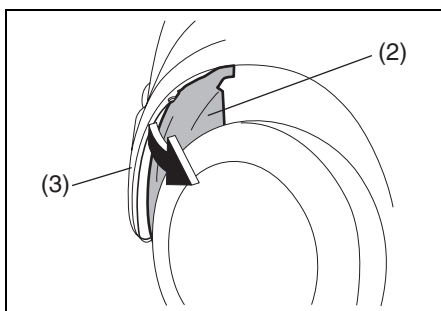
■ 方向指示器/非常点滅灯 (前面)

- 1 フェンダー内のカバーを一部外します。
 - バンパー底部のクリップ (1) は、マイナスドライバー (市販品) でこじって外します。



50M0131M

- 2 フェンダー内のカバー (2) をめくって内側から交換します。



50M0164

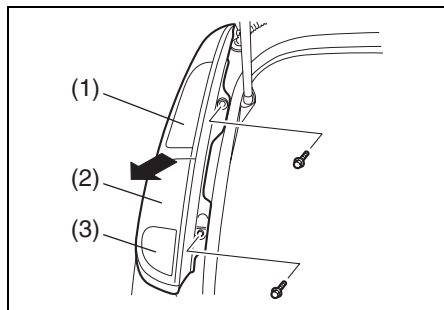
- (2)フェンダー内のカバー
(3)バンパー

- 3 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。
 - フェンダー内のカバーは、バンパーの内側に入れます。

■ リヤコンビネーションランプ

バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

- ボルト 2 個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。
- ランプ本体は、車両の後方へ引いて外します。

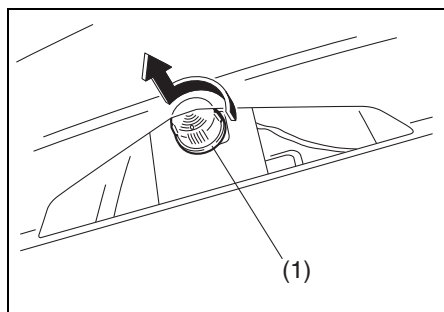


50M0134

- (1) 方向指示器／非常点滅灯
（後面、Aタイプ）
- (2) 制動灯／尾灯（Aタイプ）
- (3) 後退灯（Aタイプ）

■ 番号灯（Aタイプ）

レンズ（1）を反時計方向にまわして外してから交換します。



64L70160

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- メーター内の水温警告灯が点灯
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

⚠ 警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

水温警告灯



82K082

メータパネル内にあります。

- エンジン回転中に、エンジン冷却水温が高くなると点滅します。また、エンジン冷却水温が異常に高くなったときは点灯します。

→ 3-57ページ

（警告灯・表示灯の見かた）

オーバーヒートしたときは

- 1 車を安全な場所に止めます。
- 2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。
→ 5-55ページ (ボンネット)
- 3 冷却ファンの作動を確認し、水温警告灯が消灯するのを待ってエンジンを止めます。
 - 冷却ファンが作動していないときや、水温警告灯が消灯しないときは、ただちにエンジンを止め、日産販売会社にご連絡ください。
- 4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠ 警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



80J066

- 5 冷却水の量が不足しているときは補給します。

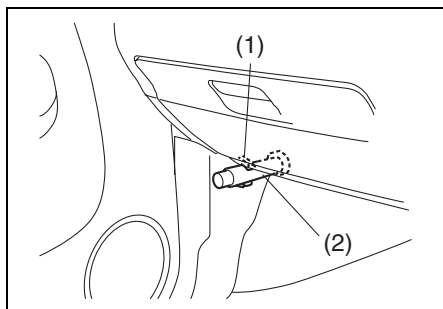
- 水漏れなどの異常があるときは、日産販売会社にご連絡ください。

📌 アドバイス

冷却水がなく、やむをえず水だけを補給したときは、できるだけ早く日産販売会社で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約5分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒は日産販売会社でご購入ください。



50M0135

(1) ホルダー (2) 発炎筒

警告

- お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
- 必ずホルダーに保管してください。
- 点火するときは、筒先を顔や身体に向けしないでください。やけどのおそれがあります。
- ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
- トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

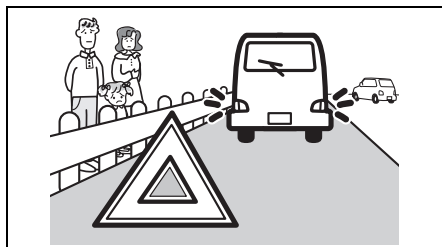
お買い求めの日産販売会社にご連絡ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

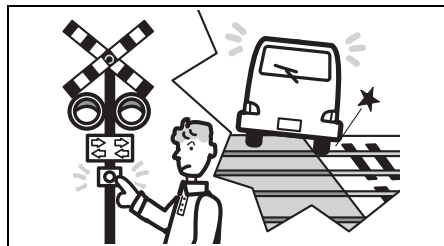


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



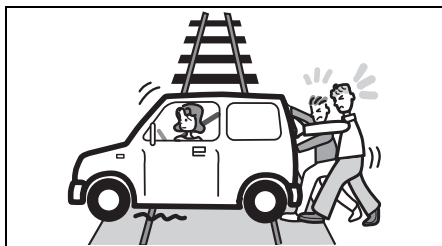
踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押しってもらって、車を安全な場所まで移動させてください。

このとき、セレクトレバーを **N** に入れます。



アドバイス

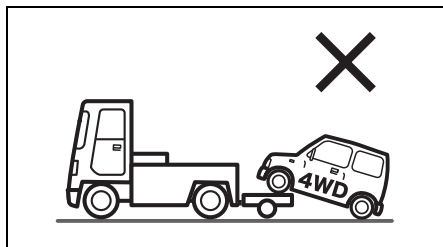
エンジンスイッチを **START** の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。

けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4WD車は必ず4輪を持ち上げてください。2WD車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。けん引する前に、日産販売会社にご連絡ください。

▲ 注意

4WD 車は、前輪だけまたは後輪だけを台車にのせた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。



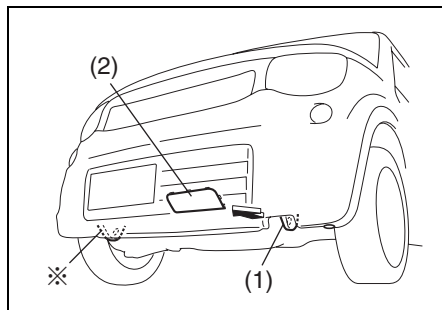
80J1265

ロープけん引

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フック（1）にかけます。

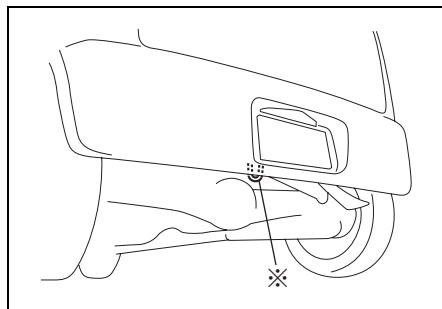
けん引フックカバー（2）は、手でつまむようにして引き抜きます。



50M0137M

▲ 注意

- この車で他車をけん引することはできません。
- フロント側およびリヤ側に装備されている※印のフックは、車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。フックや車体が破損するおそれがあります。



50M0138

ロープでけん引してもらうときは

- 1 けん引フックにロープをかけます。

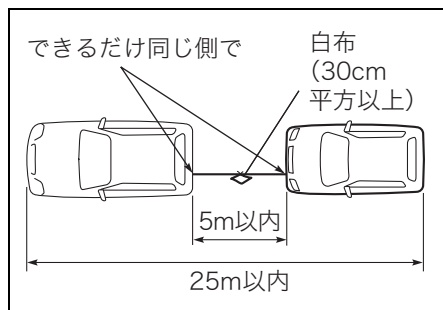
⚠ 注意

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

📏 アドバイス

ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

- 2 ロープの中間に白い布（30cm 平方以上）をつけます。



- 3 エンジンはかけたままにします。
- エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを **LOCK** (OFF) 以外の位置にします。
 - ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。

⚠ 警告

エンジンがかからない車の運転

- キーを抜いたりエンジンスイッチを **LOCK** (OFF) の位置にしたりしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。
- ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。
- パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。

⚠ 注意

故障やバッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

- 4 セレクトレバーを **N** に入れます。

📏 アドバイス

故障やバッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを **ON** にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを **P** から他の位置へ動かさないときは、**4-17 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

- 5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注意

- けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。
- やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30km/h以下、走行距離30km以内にしてください。

アドバイス

後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅灯を点滅させてください。

万ー、事故が起きたときは

処置のしかた

- 1 事故の続発を防ぐため、他の交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。
- 2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。
- 3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。
- 4 相手方、事故の状況をメモします。
- 5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

